

たいまでらねりくようえしき 當麻寺練供養会式

しょうじゅらいごうねりくようえしき
(聖衆来迎練供養会式)

平成30年5月14日(月) 午後4時〜

※平成31年(2019年)以降は毎年4月14日の開催となります



當 麻のお練り・當麻れんぞの名で親しまれている「當麻寺練供養会式」は、正式には「聖衆来迎練供養会式」という歴史的に名高い法会で、天平の世に生まれ、29歳で生きながら西方浄土へ迎えられた伝説の女性、中将姫の伝承を再現した荘厳な宗教劇です。

763年、都に生まれた中将姫は早くに母を亡くし不遇の幼少期を送ります。ある日、二上山に沈む夕日に阿弥陀如来を見たことから當麻寺に足を運び、修行します。そして29歳の春、當麻曼荼羅を一夜で織り上げた後、菩薩たちに導かれ極楽浄土へ旅立ったといわれています。

練供養は、中将姫が二十五菩薩によって極楽浄土へ導かれる様を演劇風に再現しています。来迎橋(本堂から娑婆堂にかけられた現世と浄土をつなぐ橋)の上を、金色の面の観音菩薩が中将姫の小像を蓮台に乗せ、極楽浄土に見立てた本堂へ向かって、勢至菩薩や他の菩薩とともに練り歩いていきます。観音菩薩は両手で蓮台を左右にすくい上げる所作を繰り返して進むことから「スクイボトケ」、続く勢至菩薩は合掌しながら練り歩くことから「オガミボトケ」とも呼ばれています。

現在では全国各地で練供養が行われていますが、寛弘2年(1005年)に恵心僧都源信が始めたといわれるこの當麻寺の練供養が元祖だといわれています。

當麻寺境内図

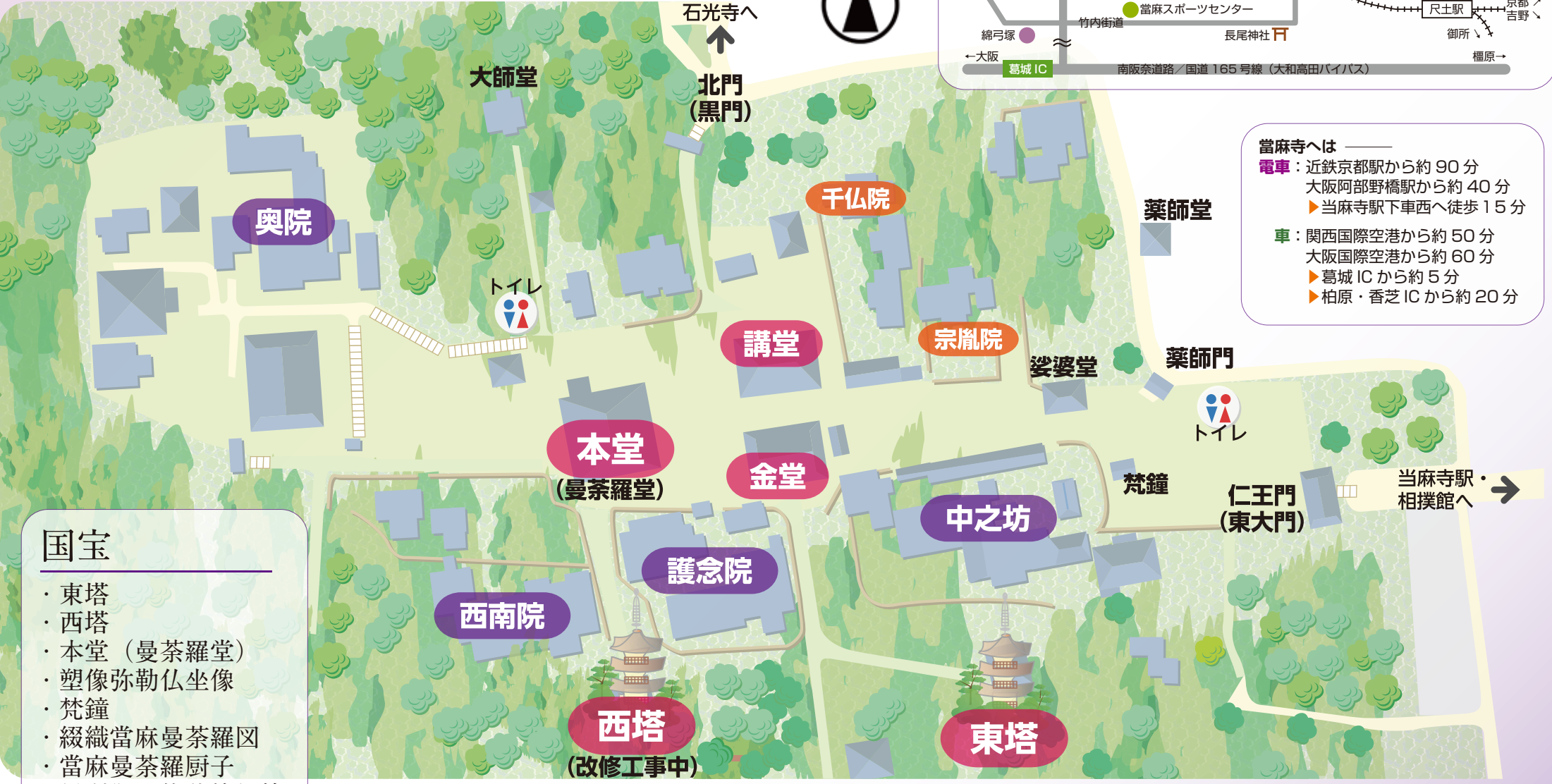
- 本堂・講堂・金堂・各塔頭の拝観はそれぞれ拝観料が必要です
- ぼたんの見頃は例年4月中頃～5月初め頃です（気候により変動）



當麻寺へは

電車：近鉄京都駅から約90分
 大阪阿部野橋駅から約40分
 ▶ 當麻寺駅下車西へ徒歩15分

車：関西国際空港から約50分
 大阪国際空港から約60分
 ▶ 葛城ICから約5分
 ▶ 柏原・香芝ICから約20分



- 国宝**
- ・ 東塔
 - ・ 西塔
 - ・ 本堂（曼荼羅堂）
 - ・ 塑像弥勒仏坐像
 - ・ 梵鐘
 - ・ 綴織當麻曼荼羅図
 - ・ 當麻曼荼羅厨子
 - ・ 俱利伽羅龍蒔絵経箱

○ 市内観光のお問い合わせは葛城市観光協会【TEL 0745 (48) 4611】へ